

グロースモデルについて

東教大農 内 藤 健 司

グロースモデルについてといっても、漠然としすぎて何を書いたらよいのかわからなくなってしまう。そこで私なりの立場から多少ともグロースモデルと関連しそうなことを書いてみようと思う。

人工林において、植栽から間伐、主伐の計画をたてるということは、言葉をかえていえばある価値体系に基づいて「密度のコントロール計画」をたてるということになる。森林家必携を開くと、〇〇地方△△林収穫表というものを見出すことができる。これは、地位別に立木本数のコントロール方法の代表的な1例を表わしたもので、各時点における平均直径・平均樹高・幹材積が記載されている。当然のことながら、価値体系が変化する、ないしは、違った価値体系に基づけば、また別の収穫表が得られよう。その点、密度管理図は、収穫表とくらべて、経済的評価が組み込まれていないという点で、より広い利用が可能である。樹高と直径に関する分散も同時に得られれば、さらに用途の広いものになるであろう。密度管理図を、ある価値体系のフィルターを通せば、その中から、従来の収穫表に相当するものを得ることは可能である。

密度管理図は、いわゆるロジスティック理論を基礎にして、作られているわけであるが、この密度管理図の検討、及び樹高・直径の分散まで含ませるという点で、ロジスティック理論以外のグロースモデルに興味をいだくものである。未熟のため（いつまでもこんな言訳をいっておれないのだけれど、？）具体的モデルをあげて作文することができなかつたけれども、グロースモデルとどんな方向で取り組むかを書いて、筆を置くことにする。